

参照条文

○学校教育法（昭和二十二年三月三十一日法律第二十六号）（抄）

第二百二条 大学院に入学することのできる者は、第八十三条の大学を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。ただし、研究科の教育研究上必要がある場合においては、当該研究科に係る入学資格を、修士の学位若しくは第四百四条第一項に規定する文部科学大臣の定める学位を有するもの又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とすることができる。

2（略）

○学校教育法施行規則（昭和二十二年五月二十三日文部省令第十一号）（抄）

第一百五十五条 学校教育法第九十一条第二項又は第二百二条第一項本文の規定により、大学（短期大学を除く。以下この項において同じ。）の専攻科又は大学院への入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし、第七号及び第八号については、大学院への入学に係るものに限る。

- 一 専修学校の専門課程（修業年限が四年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 二 六 八（略）

○学校教育法施行規則第一百五十五条第一項第五号の規定に基づく専修学校の専門課程のうち、当該課程を修了した者が大学（短期大学を除く。）の専攻科又は大学院への入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められるものに係る基準を定める件（平成十七年文部科学省告示第百三十八号）（抄）

学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）第一百五十五条第一項第五号の規定に基づき、専修学校の専門課程のうち、当該課程を修了した者が大学（短期大学を除く。）の専攻科又は大学院への入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められるものに係る基準を次のように定める。

一 修業年限が四年以上であること。

二 全課程の修了の要件が、次の表上欄に掲げる学科の区分に応じ、同表下欄に掲げるものであること。

専修学校設置基準（昭和五十一年文部省令第二号）第四条に規定する昼間学科又は夜間等	学科の区分	要件
学校教育法施行規則第八十三条の二第二項の規定により学年による教育課程の区分を設けない学科（以下この表において「単位制による学科」という。）であるもの	全課程の修了に必要な総授業時数が三千四百単位時間以上であること。	

学科	外のもの	
専修学校設置基準第五条第一項に規定する通信制の学科	単位制による学科であるもの	全課程の修了に必要な総単位数が百二十四単位

三 体系的に教育課程が編成されていること。

四 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程の修了の認定を行っていること。

○学校教育法施行規則第一百五十五条第一項第五号の専修学校の専門課程等を定める告示（平成十七年文部科学省告示第百六十九号）

学校教育法施行規則第一百五十五条第一項第五号の専修学校の専門課程は、次の表一から表四十六までの上欄に掲げるものとし、同号の文部科学大臣の定める日は、それぞれこれらの表の下欄に掲げる日とする。

表一（表四十七（略））